

## 1月4日（水曜日）日高見希望塾で書きぞめ練習会

12月28日に、書きぞめ練習会を実施しました。希望する9名の生徒が集まり、石巻地区書きぞめ展覧会に向けて、より完成度の高い作品を仕上げようと、一生懸命取り組みました。桃生町内で習字教室を開催されている菅原先生のご指導をいただきながら、充実した練習会となりました。



## 1月6日（金曜日）令和5年が始まります

宮城県内を代表する、新春の希望に満ちた行事として受け継がれてきた、石巻市桃生地区の成人式が昨日実施されました。厳かな雰囲気が会場全体に溢れ、新成人55名の門出を祝福するとともに、今後の活躍を大いに期待したいと皆が願いたくなるような素晴らしい成人式でした。後輩となる桃生中生は、日高見希望塾での書きぞめ練習会や、1月に受験がある3年生の面接練習などが行われています。元気に部活動する生徒の元気な声が聞こえ、1月10日（火曜日）の始業式に178名全員と逢える日を楽しみにしています。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。



## 1月13日（金）新型コロナウイルス感染症対策について

始業式後の保健関係の話の中で、養護教諭が新型コロナウイルス感染症対策について話をしました。感染症対策は他にもたくさんありますが、この3学期、特に気を付けたいことは次の3つです。

### 1 朝の健康観察

登校前には体温を測定し、体調不良がないかを確認します。「ちょっと風邪をひいたかも？」という場合も、無理をしないで学校をお休みしてください。（出席停止扱い）

☆ 自分は元気でも、同居するご家族に体調不良の方がいた場合も、学校をお休みすることになります。

### 2 活動場所や活動場面に応じたメリハリのあるマスクの着用

屋外で活動するとき、また体育や部活動のときはマスクの着用は求められません。ただ、会話を  
する際に2mを確保できない場合には、マスクを着用する必要があります。

### 3 換気

気温が寒い冬でも、できるだけ「常時換気」をするようにします。天気が悪くて窓を開けられない場合でも、休み時間ごとに窓を開けて換気を行います。

### 4 その他

「手洗い」・「手指消毒」・「栄養，睡眠，休養をしっかりとること」等，一人一人ができる予防行動をしっかりとっていきましょう。

☆ 保護者やご家族の皆様におかれましても，改めてご理解とご協力をお願い致します。

### 1月13日（金）3年生最後の実力テスト

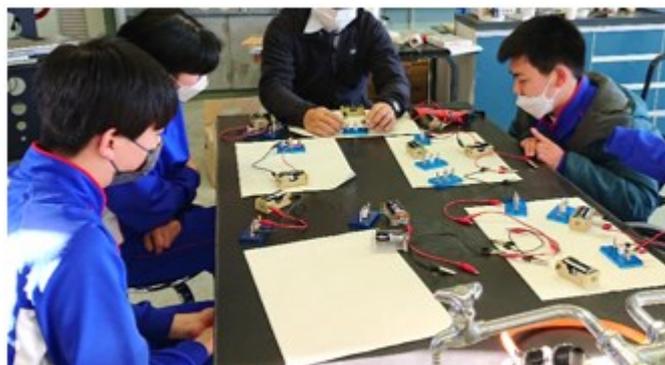
中学校生活も残すところ，あと54日となりました。3年生は最後の実力テストに奮闘中です。冬休み中に頑張った成果を発揮して，来る高校入試に向けて弾みをつけてほしいと思います。頑張れ3年生！



### 1月13日（金）今週は「みんなにあっぱれ！」

11日（水）の理科の授業では，乾電池と電球を黒，赤色のリード線をつないで豆電球を点灯させる実験を行いました。教員が作った回路を見本にして，生徒も回路作りに挑戦しましたが，電球が点灯しません。教員の回路と自分のものと何が違うかを全員で確認するうちに見事電球が点灯しました。

12日（木）は3年生の入試，共同実習所の3学期始業式が行われました。実習所の始業式では，学校を代表して発表した生徒が，他の中学生の前で堂々と3学期の抱負を発表しました。入試に臨んだ生徒は，いつもと違う環境下で緊張しながらも長時間よく頑張りました。保護者の皆様には，ご協力いただきありがとうございます。



### 1月13日（金）1年生2名が始業式で発表

新年あけましておめでとうございます。1月10日に始業式が行われ，3学期がスタートしました。始業式では，学年代表として学級委員と，生徒会を代表して1年生が3学期への抱負を発表しました。学年代表の発表を2回に分けて，紹介します。

みなさんは、今年おみくじを引きましたか？私は今年おみくじを引いて末吉でした。末吉は喜べる結果ではなかったけれど、今後私が前向きに頑張ろうと思う内容が書かれていました。

それは、「今はとても困難だけれど、努力をすれば大きな成果が得られる」です。

そこで、私が3学期にどんな目標をもって努力をしたいかを発表します。

1つ目は「部活動と勉強の両立」です。授業に集中することはもちろん、3学期では1年生で勉強したところをまとめたいです。家庭学習では、今までスマートフォンなどを見てしまいあまり集中できていなかったのが3学期の目標として、勉強中はスマートフォンの電源を切るなど工夫していきたいです。部活動では、オフシーズンですが冬の筋トレなどがとても大切だと思います。家での練習なども欠かさずしていきたいです。(つづく)



## 1月16日(月) ジャレット先生、桃生中はどうですか？

12月5日(月)にALTのジャレット先生が赴任されてから1ヶ月が経ちました。ジャレット先生に桃生中学校の生徒について聞いたところ、まずは「very good!」の一言。それに続いて「フレンドリーで、英語の授業に一生懸命に取り組んでいます。」「中には英語に非常に高い関心がある生徒がいて、授業以外にも英語の活動に取り組んでいてレベルも高いです。」「とお話をいただきました。「習うより慣れろ」とよく言われますが、桃生中学校の英語の授業では、生徒同士の英語による意見交換が盛んに行われています。



## 1月17日（火）

1年生は1月18日（水）に石巻市震災遺構「門脇小学校」を訪れ、防災学習を行います。見学施設である「門脇小学校」に関する学習プリントについて、事前に予習をしたことについて、学級で意見交換をしました。



## 1月18日（水）テイラー・アンダーソン記念基金 記念品贈呈式の様子

1月17日（火）にテイラー・アンダーソン記念基金から本棚が寄贈され、学校代表として3年生の生徒が贈呈式に参加しました。基金の理事でいらっしゃる高成田亨様、本棚を作成していただいた「株式会社 木遊木」の遠藤伸一様より、本の目録が代表生徒に贈呈されました。

中学校から遠藤千晴さんが代表として挨拶をし、3年生が作成した「防災パンフレット」が千晴さんから高成田様に手渡されました。このパンフレットは、3年生が英語の授業で震災について調べたり感じたりしたことを英語で書いたもので、テイラーさんや遠藤様についても言及されています。

贈呈式の中で高成田様からは、「テイラーさんが日本とアメリカの架け橋になろうとしていたこと」「これからの時代を生き抜くためにコミュニケーションツールとして英語が非常に大切であること」などたくさんのご教授いただきました。遠藤伸一様からは、「テイラーさんがもし生きていればこんな活動を行いたかったであろうという思いでこの支援を続けている」「頑張っている人に対して人間は応援したくなるもの。みなさんも頑張って、人のことを考えられる優しい人になってほしい。そうすれば必ず誰かが手を差し伸べてくれる」と人生の教訓と励ましの言葉をいただきました。

寄贈された本棚は全て手作りで、アメリカのセコイアという木からとれた「レッドウッド」が一部使用されており、「アメリカと日本の架け橋」としての意味づけがあるそうです。大事に使わせていただきます。



## 1月19日（木）「いのちの大切さ」竜山中との交流

1年生が「いのちの大切さ」について、竜山中学校と道徳科の授業で交流を行いました。

### 「阪神・淡路」「東日本」被災地をリモートで結ぶ 中学生が思いひとつに

産経新聞 2023/1/19 17:21 より

17日に発災28年となった阪神・淡路大震災の被災地・兵庫県と、まもなく「3・11」を迎える東日本大震災の甚大な被害を受けた宮城県の中学1年生が、「命の大切さ」を一緒に考えるリモート授業が行われた。「道徳」の授業に取り込みながら、震災を風化させることなく、「命」を持続的に考える画期的な試みだ。授業を終えた生徒たちは「またたくさんのことを学んで、つなげていきたい」と話していた。



タブレットを使って、意見をまとめる桃生中学校の生徒たち＝19日、宮城県石巻市

リモートで授業を受けたのは、兵庫県高砂市立竜山（たつやま）中学校の99人と、宮城県石巻市立桃生（ものう）中学校の52人。

竜山中は、東日本大震災で家屋が流出した石巻市南浜に咲いた「ど根性ひまわり」を育てる活動に取り組んでいる。そのつながりで、石巻市内の中学校との交流先を探していたところ、桃生中に「白羽の矢」が立った。

教材には、阪神・淡路大震災の実話『語りかける目』が使われた。救助に出動した警察官が見つけた少女は目の前に、焼け焦げた鍋が置かれている。中を覗き込むと、小さな遺骨。少女が集めた亡き母のものだった。じっと見つめる少女の目。いたたまれなくなった警察官は何も言えず、その場を離れてしまう。

竜山中の道徳の授業がそのまま桃生中でも流され、教諭が2つの中学校の生徒たちに語りかけた。「印象に残ったところはどこ？」「どんな気持ちで現場を離れたと思う？」。生徒たちは「覚悟を伝えている目」「くじけずに、前を向いていこうという気持ち」「何で助けてくれなかったんだろう」などと、それぞれの思いを伝えた。

桃生中の酒井琉君は当時1歳だったが、「両親の話でしか震災を知らない。もっと長い時間学習していきたい」。同じく佐藤空さんは、津波でおばを亡くしたという。「当たり前のことが、毎日続くとは限らない。いろんなことを学んでつなげていきたい」と話していた。まったく別の場所で起こった震災だが、生徒たちは思いをひとつに授業に向かっていった。

## 1月19日（木）「いのちの大切さについて学ぶ」

1年生が石巻市震災遺構「門脇小学校」で、いのちの大切さについて学んできました。

# 宮城・石巻市の中学生が震災遺構で防災の大切さを学ぶ

（1月18日（水）khh 東日本放送より）

宮城県石巻市の中学生が、震災遺構門脇小学校で防災の大切さを学びました。学習した内容は、兵庫県の中学校との交流授業で発表します。

門脇小学校を訪れたのは、桃生  
中学校の1年生52人です。

はじめに、震災当時、門脇小学校  
の校長だった鈴木洋子さんから、  
津波が町を襲った様子や学校の様



子などを聞きました。その後、津波火災で焼け焦げた教室や避難行動の記録  
などを見学し、防災意識や避難訓練の重要性を学びました。生徒「普段の避  
難訓練、が命を守ることにつながる行動なの分かりました」「（震災を）経  
験したけど覚えていないから、大人から聞いた話を次の世代につなげていき  
たいと思います」生徒たちは、18日に学んだことをまとめて、兵庫県の中学  
校との交流授業で発表するということです。門脇小学校を管理運営する団体  
は、全国の児童生徒に震災についての学びの場を提供していきたいと話してい  
ます。

**「テレビでしか見たことなく」中学生が震災遺構門脇小で震災学習 娘を失った女性の話「ただいまの声をいまだに聞くことができません」に生徒たちは 宮城・石巻市（「東北放送1月18日」から）**

東日本大震災の教訓を学ぼうと18日、宮城県石巻市内の中学生が震災遺構、門脇小学校を訪れました。石巻市は震災遺構での体験学習のモデルプランを作ることになっています。石巻市の震災遺構、門脇小学校を訪れたのは桃生中学校の1年生48人です。

門脇小学校の解説スタッフ：

「ここは校長室でした、よく見てみてください」

生徒たちは、門脇小学校の校舎や、移設された仮設住宅の展示を施設の開設スタッフの案内で見学しました。

「この教室にいたとして、地震きました、津波が来るってなったらどこに逃げますか？」

生徒：「日和山」

門脇小学校の解説スタッフ：

「そうだね、高台に逃げるっていうのが一番安全です」また、この日のために特別講師も招かれました。その一人、佐藤美香さん。震災で、当時6歳だった娘の愛梨さんを亡くしました。

「娘は幼稚園の年長さんで亡くなっています」

通っていた幼稚園は高台にあり津波を免れていました。しかし、愛梨さんは送迎バスに乗せられ、そのバスは沿岸部に住む子どもたちを家に送り届けるため、高台を下りました。そして津波にのまれ、その後の火災に巻き込まれたのです。

佐藤美香さん：

「見てもらいたいものがあります。こちらになります。こちらはクレヨンです。そしてこちらは幼稚園で使っていた上履きになります。実は娘は全身見つかりません。なので、骨を1本でも2本でも拾ってあげたいとの思いから、娘が亡くなった場所に通うようになります。その中で見つけたものです」

佐藤さんは、生徒たちをその場所に連れて行きました。

佐藤美香さん：

「ここで私の娘は見つかりました。私たちは、3月14日ようやくこの場所にたどりつくことができました。私の娘は3月11日、朝、行ってきますと言って出ていきました。でも、ただいまの声をいまだに聞くことができません」

石巻市などは小中学校向けに門脇小学校での体験学習のモデルプランを作成する計画で、今回の訪問はそのテストケースの1つとして行われました。

参加した生徒：

「まずは自分の身を守って、余裕があったらほかの困っている人も助けたりしてできるだけ多くの命を救いたと思います」

「テレビでしか見たことなく、実際に経験した人の声を聴くのは初めてで、帰ったらめっちゃ家族に話すと思います。」



## 震災遺構で命の大切さを学ぶ授業”講師は震災時の中学生”千年後の命を守るために 宮城・石巻市 (ミヤギテレビ2023. 01. 18(水)より)

石巻市の中学生が震災遺構の門脇小学校で当時の体験を聞いて命の大切さを学ぶ授業が開かれた。講師を務めたのは当時の中学生。石巻市の桃生中学校の1年生49人は18日午前震災遺構の門脇小学校を訪れた。生徒たちは津波の被害とその後の火災の爪痕が残る校舎を見学した。震災の体験を語るのは女川出身の社会人。2人は震災後中学校の防災活動で避難の目印となる『いのちの石碑』を町内21の浜の高台に建設し、現在も避難の教訓を伝える活動を続けている。女川1000年後のいのちを守る会 渡邊滉大さん：「縦の揺れのあとに横の揺れもあった、しっかり抑えてるけどこうなってた、どンドン」震災当時1歳未満だった生徒たち。当時の学校での地震の揺れの大きさや高台への避難行動について耳を傾けた。「しっかり震災覚えている人から聞くとちゃんと意思も伝わるし、これからも震災について語り継いでいけるようにがんばりたい」女川1000年後のいのちを守る会 伊藤唯さん：「自分たちの話を聞いてもらって最後また違った疑問や感想を持ってくれた子が多くてよかった」桃生中学校では今後も震災遺構の見学などいのちの大切さを学ぶ授業を続けていくことにしている。

### 1月19日(木)

2学期から全校で作文トレーニングを実施しています。毎週金曜の朝、短い文章を読んで140字以内の作文を書くという活動を行っています。12月16日(金)は2学期の最後の作文トレーニングとして「ハチドリのひとしずく」という読み物の感想を生徒に書いてもらいました。

大火事になった森の中、我先にと逃げる動物たちと逆行し、ハチドリのクリキンディは、その小さな小さな体で、雨粒ほどの水を一滴一滴火の森に運んでいます。「そんなことをしていったい何になるんだ」と問う動物たちにクリキンディは答えます。「私は、私にできることをしているだけ」

さて、勇気あるクリキンディの姿に、生徒は何を思ったのでしょうか。桃生中職員玄関前に全校生徒

の作品が掲示してありますが、今回はその中から2年生生徒の作品をご紹介します。

### 「そんなこと？」

確かに文の書き方だけで動物たちを悪と思わせることができる。本当は大切な命を守ろうとしていただけかもしれない。でも、その動物たちが守った命を「そんなこと」と言われたら、きっと怒る。それはクリキンディにとっても同じ。でもクリキンディは冷静に勇気をもって行動していて、とても凄いと感じた。

### 「ハチドリの一ひとしずくを読んで」

自分にできることなんて何もないとあきらめずに、自分にしかできないことを見つける。それが大切だと言うことが分かりました。友達が困っているとき、自分にできることがあったときはすすんで取り組んでいきたいです。

### 「私の力」

私たちは、自覚はないけれど凄い力を秘めているのではないかと考えました。この物語ではハチドリのようにからだに似合わぬ大きな力があると思います。それは人間でも同様で身体の大小関係なく無限の可能性があるということでした。物語のように私は勇気を出し、頑張ってみようと思いました。

1月20日(金)

「いのちの大切さを学ぶ」体験学習で、1年生は未来について考えを深めました。

河 谷 幸 氏 2023年(令和5年)1月19日(木曜日)

## 石巻・桃生中生 「門脇小」で教訓を学ぶ

# 避難行動大事さ実感

石巻市桃生中(生徒178人)の1年生が18日、市の東日本大震災遺構「門脇小」を訪れ、津波被害や災害への備えを学んだ。震災を知らない世代が事実や教訓を伝えたいけるように、同校と市教委が連携して企画した。生徒52人が参加。解説員から、門脇小の児童が震災発生直後に裏山に避難した様子や、北上川と旧北上川を遡上

した津波で内陸部も大きく被災したところについて説明を受けた。

参加した白石美穂さん(12)は「災害時の避難は口頭から行動が大事だと知った。ハザードマップなどを見て近く避難場所を確認したい」と話した。

生徒は19日、兵庫県高砂市建設会社に就職した森藤を交流授業を実施し、阪神大震災についても学ぶ。

実現してほしい」とエールを送った。

「災害時の避難は口頭から行動が大事だと知った。ハザードマップなどを見て近く避難場所を確認したい」と話した。

生徒は19日、兵庫県高砂市建設会社に就職した森藤を交流授業を実施し、阪神大震災についても学ぶ。



被災した校舎を見ながら解説員の話聞く生徒

## 被災の現実——見る聞く触れる

1月20日（金）

テイラー・アンダーソン記念基金より、本棚等の寄贈をいただきました。

朝日新聞 2023年01月18日（水）より

## テイラー文庫，桃生中で贈呈式

東日本大震災 **3.11** 震災・復興

東日本大震災の津波で亡くなった外国語指導助手の米国人女性，テイラー・アンダーソンさん（当時 24）の遺志を継ごうと，遺族らが被災地の学校などに本棚を寄贈する「テイラー文庫」の贈呈式が 17 日，宮城県石巻市の桃生中学校であった。生徒らが場所を気にせず気軽に読書を楽しめるよう，移動可能でベンチにもなる，木製の本棚 3 台が贈られた。

テイラーさんは 2008 年，石巻市に赴任。震災当日，万石浦小学校で子どもたちを避難させた後，津波にのまれた。

テイラー文庫は 11 年 9 月，本が大好きだったテイラーさんのために，両親らが万石浦小に子ども向けの英語の本や本棚を寄贈したのが始まり。桃生中で 28 カ所目となり，4 月には米国のテイラーさんの出身大学にも設置される予定だ。

贈呈式で，制作者の遠藤伸一さん（53）は「震災からもうすぐ 12 年になるが，今も世界中から多くの方が支援してくれている。それを忘れずに大切に使ってほしい」とあいさつした。

3 年生の伊丸岡杏摘（あつみ）さん（15）は「本棚はみんなが長く使うもの。テイラーさんの物語も一緒に語り継いでいきたい」と話した。（三浦英之）



贈呈されたテイラー文庫と桃生中の生徒ら＝宮城県石巻市、三浦英之撮影



## 1月23日（月）

1階東側の北校舎と南校舎の通路に色とりどりのペットボトルがずらり。1年生の美術の授業「オリジナルドリンクのデザイン」で制作した、美術作品が展示されています。生徒が架空のドリンクをプロデュースする授業で、味や効能、成分まで細かく設定されており、ラベルやドリンクの色もイメージに合わせて工夫されています。ご来校の際はぜひ楽しい作品をご覧ください。



## 1月24日（火）3年生ファイト！！

1月17日に実施した「生活アンケート」。冬休み中も一生懸命頑張っている3年生。毎日の学校生活を皆で頑張っている3年生の姿が目に見えます。

- ・勉強づくしの1ヶ月間でした。あと入試までわずかしかなので頑張りたいです。
- ・進学したい高校に進むことができるように、毎日、後悔しないような生活を送りたいです。
- ・ついに中学校生活最後の学期が始まってしまい、寂しいです。残り一日一日を大切に過ごしたいです。
- ・自分の入試が終わりとても安心しました。しかし、卒業まで友だちと一緒に勉強を頑張り、学校生活を楽みたいです。
- ・休み時間を活用して勉強している人が多くみられ、とてもいいなあと思いました。
- ・受験に向けてラストスパート。頑張っていきたいです。
- ・生活リズムを崩さないように意識していきたい。



## 1月25日（水）

2年生が家庭科の授業で「生姜焼き」の調理実習に取り組みました。生徒は自分が食べるものだけを自分で作るなど、新型コロナウイルス感染症予防対策に気を付けながら実施しました。

みんながこの実習を楽しみにしており、当日の朝の会のスピーチで「今日の調理実習が楽しみです」と話していました。慣れた手つきの生徒も多くおり、今回の授業で学んだことをご家庭でのお手伝いに更に活かしてほしいものです。



1月25日（水）「いのちの大切さを学ぶ」学習、日本各地へ発信される

1年生の体験学習が、共同通信様様の取材をとおして東京新聞・熊本日日新聞・沖縄タイムス・神戸新聞など日本各地へ、そして、ロイター通信で世界へ発信されました

## 被災地の中学、授業で交流 兵庫・宮城結びオンライン

2023.01.19(木)18:41 共同通信 より



阪神大震災、東日本大震災でそれぞれ被害に遭った兵庫県高砂市と宮城県石巻市の中学1年生同士が19日、オンラインによる道徳の授業で交流した。教材にしたのは、17日で発生から28年となった阪神大震災に関する警察官の手記。生徒たちは被害の理解を深め、命の大切さを学んだ。今後も交流を続ける。

兵庫・竜山中の授業を宮城・桃生中の生徒がリモートで視聴する形で実施。竜山中53人、桃生中52人が出席した。手記「語りかける目」は母の骨を拾い集めた少女と接した警察官の話で、内容を聞いた生徒がそれぞれ感想を言い合った。

## 1月26日（木）自ら進んで… ボランティア精神・奉仕の心

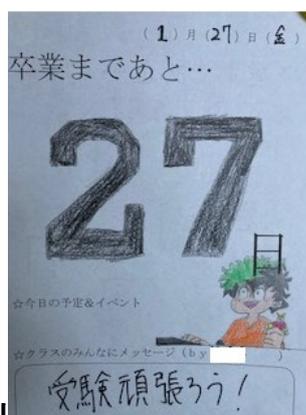
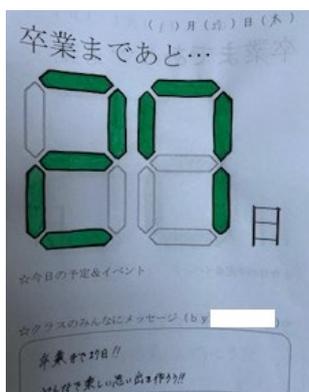
今週は、とても厳しい寒さが続いています。

今朝、登校した3年生が「私も手伝います」と言って、昨夜積もった雪の除雪作業を手伝ってくれました。その後登校した生徒も次々と手伝い出し、8時前には学校地内の除雪が終えることができました。7時から除雪をしていた用務員さんはじめ、先生方の心もほっこり温まりました。



## 1月27日（金）卒業まであと〇日

3年生の教室には、「卒業まであと〇日」のカレンダーが掲示されています。3年生は運動不足を補うため毎日30分歩いて登校する人、登校すると近くの人と問題を出し合う人、過去の入試問題をひたすら解く人、黙々と参考書を読む人など、それぞれがそれぞれのペースで準備をしています。給食準備等では和やかな雰囲気を作り出すことができる、すてきな3年生です。ファイト！！



## 1月27日（金）すてきな作品が完成しました

12月の女川校外学習で作った「スペインタイル」が焼きあがり、学校に届きました。どれもが、それぞれの工夫が詰められ、とてもすてきな作品となりました。全校生徒が一番活用する公衆電話横に展示してあります。ご来校いただいた際に、ぜひご覧ください。



# 1月30日(月)「1年 兵庫県竜山中学校との交流授業」

竜山中学校との交流授業が紹介されました。

毎 日 新 聞

2023年(令和5年)1月22日(日)

## 被災地の中学生 オンライン交流 兵庫と宮城結び授業 阪神大震災、東日本 大震災でそれぞれ被害

に遭った兵庫県高砂市と宮城県石巻市の中学1年生同士が19日、オンラインによる道徳の授業で交流した。教材にしたのは、17日で発生から28年となった阪神大震災に関する警察官の手記。生徒たちは被害の理解を深め、命の大切さを学んだ。今後も交流を続ける。

兵庫・竜山中の授業を宮城・桃生中の生徒がリモートで視聴する形で実施。竜山中53人、桃生中52人が出席した。手記「語りかける目」は母の骨を拾い集めた少女と接した警察官の話で、内容を聞いた生徒がそれぞれ感想を言い合った。

東日本大震災で親戚を亡くした桃生中の佐藤空さん(13)は「命の大切さを改めて知った。阪神大震災についてもいろいろなることを知り、次の世代についていきたい」と語った。竜山中の大西悠生さん(13)は「桃生中の生徒は震災を経験しているが、自分たちは経験していない。これからも交流して学びたい」と話した。

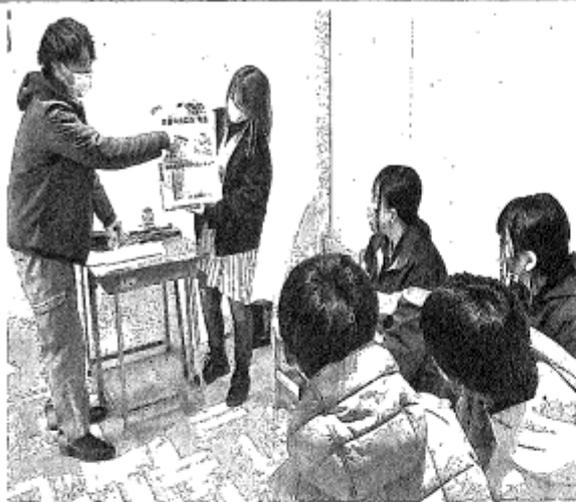
互いの感想を聞いた生徒は拍手やコメント



兵庫・竜山中とのオンラインによる授業で、画面越しに意見を発表する宮城・桃生中の生徒(左)―宮城県石巻市で

# 震災知らぬ子へ 学習プログラム

東日本大震災で被災し、昨年4月に公開された石巻市の震災遺構・門脇小学校で、震災を体験していない世代に向けた新しい震災学習プログラムをつくる動きが始まっている。18日には、遺構施設とモデル校の市立桃生中が作った学習プログラムを生徒が体験した。



## 石巻の遺構 門脇小で中学生体験

体験には生徒52人が参加。5人グループに分かれて行動し、解説員のガイドで同施設を見学したり、震災当時の門脇小学校長ら5人の講師から震災当時の様子を聞いた。

女川中学校(女川町)の卒業生でつくる「女川1000年後のいのちを守る会」のメンバーの渡辺混大さん(24)と伊藤唯さん(24)は、津波到達点を示すモニメント「いのちの石碑」を設置した活動などを紹介した。伊藤さんは「ちゃんと伝える人になってほしい」と言葉をかけた。

桃生中1年の佐々木陸さん(13)は「今まで本でしか震災を学んでこなかったが、現地に足を運んで人から話を聞くことで震災の恐ろしさも伝わりやすかった」と振り返った。

門脇小の遺構施設では、ワークシートを使用した震災学習も導入するなど模索を続けている。施設のリチ

震災当時の様子を振り返る(左端から渡辺さんと伊藤さん(18日、石巻市))

ャード・ハルバーシュタット館長(57)は「震災を知らない世代に伝えていくことが重要。震災に興味を持ってもらう工夫をしていきたい」と話した。